



取材日:平成25年8月9日(金)

取材先:NPO 法人 伊賀の伝丸(三重県伊賀市)

レポーター名:三重大学人文学部法律経済学科4年 田中裕佳梨

外国人も力を発揮できる伊賀に NPO 法人 伊賀の伝丸

三重県は全国で3番目に外国人比率が高く、約100ヶ国の国籍の人が生活している。中でも伊賀市は、4748人(2011年4月現在)の外国人が暮らしており、人口比では三重県内で1番である。学校ではクラスに2~3人外国出身の子供がいることが当たり前、とされるくらい外国人が多く暮らす地域だ。

そんな伊賀市を中心に、「NPO 法人 伊賀の伝丸^{つたまる}」は多文化共生社会推進のための事業を行っている。主な活動内容は、通訳・翻訳、日本語講座、日本人向けの外国語講座、生活相談、各国の文化紹介などである。

代表の和田さんは伊賀市出身で、インドネシアに3年間滞在していた経験がある。言葉の分からない異国の地で、違う文化や習慣に戸惑ったが、周りの人の助けもあり、少しずつ乗り越えていった。「その時に感じた恩を今度は伊賀で返したい」という思いから、伊賀の伝丸を立ち上げた。ただ外国人を支援するのではなく、文化や言葉の違いを理解しあい、日本人も外国人も同じように力を発揮できるまちにしたい、というのが伊賀の伝丸の思いだ。

通訳・翻訳や日本語講座には多くの専門知識・ノウハウを蓄積している。病院の診察、学校での三者面談に同席しての通訳、工場での研修生向けの通訳を行うなど、様々な場面での通訳を行っている。行政に提出する公的文書の翻訳も多い。日本語講座は外国人の日本語の習得度に合わせて、基本的な挨拶から、敬語、さらには資格取得のための専門用語を扱うこともあるという。

通訳・翻訳は、ただ外国語を日本語に、日本語を外国語に訳をすれば良いわけではない。例えば、日本では「奨学金」の多くが「一旦学費の支払いのために借りているだけで、いつかは返済しなければいけないもの」であるが、外国では「奨学金は返済が不要でもらえるもの」であることが多いという。よって日本語の「奨学金」を外国語に訳すると、返済が必要かどうかという点で、誤解が生じてしまう恐れがあるのだ。正しく伝わるように通訳・翻訳を行うには、補足を行うなどの細心の注意が必要なのである。

代表の和田さんは「誤訳を信じて行動し、怒られたり困ったりするのは外国人の人。それは許せない」と語っていた。伊賀の伝丸では正しく伝わる訳ができるよう、翻訳ではダブルチェックを必ず行

い、通訳にはプロとして臨むようにと徹底している。

また、正しく伝わる訳をするためには、専門的な知識も必要不可欠だ。病院では専門用語が分からないと通訳ができないこともあり、行政の公的文書には複雑な手続きが必要となる。法律の改正等によって制度が変更されることもある。このような変化に、時には専門家とも連携して対応し、設立から約10年間、知識やノウハウを蓄積してきた。

日本人と外国人が交流する場の提供にも積極的だ。伊賀市の住民自治協議会と協力し、人権のアンケートの実施、お茶会で日本人と外国人が少人数でテーブルトークを行う取り組みなども実施している。その場には伊賀の伝丸特製の「キット」を用いている。自分の名前などを埋めるだけで、各国の言葉や易しい日本語で自己紹介を行うことができるように工夫された自己紹介カードなど、お互いの言葉が分からなくてもコミュニケーションの助けとなるキットだ。それに加えて「多国語あいさつ会話集」という、各言語でのあいさつの言葉を集めた小冊子の配布も行っている。

外国と日本では生活の習慣で異なることも少なくない。その違いが時に日本人と外国人との間の摩擦を生んでしまうのだ。交流が無いままだと、この摩擦が解消されることはない。しかし、イベントをきっかけに顔見知りになれば、道で会ったときにイベントで知った母語であいさつを交わすことができる。その少しの会話をキッカケに、お互いの理解は進んでいく。

「伊賀の伝丸の事業を通じ、伊賀のまちづくりをしているつもりだ」と和田さん。更なる自治体との連携や、地元の学生を巻き込んだ取り組みの模索も精力的に行っている。日本人も外国人も暮らしやすい伊賀のまちを目指し、伊賀の伝丸はこれからも活動を続けていく。

* 編集後記

今回の取材では、代表の和田さん、副代表の菊山さんから2時間以上にわたり、たくさんのお話を伺いました。

この活動を続ける理由について、副代表の菊山さんは「異文化の地で大変な思いをしている人たちの人生を、ちょっとしたことで良い方向に変えることができる。それが嬉しい」と仰っていたのがとても印象的でした。自分の持つスキルを活かし、誰かの役に立てるといふ喜びは、生活の糧を得るため以外の、大きな働く理由・やりがいなのではないかと感じ、来年から社会人となる筆者自身にも響く言葉でした。

伊賀の伝丸の活動は、通訳・翻訳を通して日本語が堪能でない人に「今」力になり、日本語講座や地域住民との交流などを通じ「未来」に繋がっていきます。伊賀の伝丸の活動がどのような未来に繋がっていくのかが、今後とても楽しみです。そしてこの取り組みを多くの人に知っていただき、国際化の進む日本の他の地域にも広がってほしいと思いました。